

がんの治療

1) がんの基礎知識

① がんの発生

私たちの体の中では、何らかの原因で遺伝子が傷つくことで、「がん細胞」ができません。これは誰の体の中でも起こっていることで、毎日数千個できると言われています。通常は、自分の免疫でがん細胞を攻撃して死滅されていますが、免疫の攻撃をすり抜けたがん細胞がそのまま増殖し続け、やがてがんを作ります。現在日本人の2人に1人は何らかのがんにかかると言われており、誰にでも起こりうる病気です。

② がんの種類

がんは体内のあらゆる部位から発生します。「がんの種類」は以下のように分類されます。

- 造血器（骨髄や血液リンパ系組織）にできる「造血器腫瘍」
例）白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など
- 上皮細胞（皮膚、内臓の粘膜）にできる「がん」
例）肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、子宮がんなど
- 非上皮性細胞（骨、軟骨、筋肉など臓器をつなぐ組織）にできる「肉腫」
例）骨肉腫、軟骨肉腫、横紋筋肉腫など

③ 病期

がん治療方針を決めるにあたって、病気の進み具合(進行度)を調べる必要があります。がんの進み具合を表すのが「病期（ステージ）」です。多くのがんの病期はⅠ～Ⅳ期に分けられており、Ⅰ期が早期で、数字が上がるにつれて進行がんとなります。注意していただきたいのは「Ⅳ期＝末期がん」を指すわけではありません。病期はあくまで、がんの進行度を分類し、その時期に最も適した治療を選択するための情報です。

④ 希少がん

患者数が少なく「まれ」ながんを希少がんといいます。希少がんは診断や治療に関する情報が少なく、患者自身が情報を入手しにくい場合がありますが、国立がん研究センターに「希少がんセンター」が設置されており、ホームページで希少がんに関する情報が公開されています。

また、希少がんの専門医療機関の情報などは、徳島大学病院のがん相談支援センターで施設別がん登録件数検索システムを活用し、情報探しのお手伝いができます。

☑「希少がんセンター」(国立がん研究センター)

<https://www.ncc.go.jp/jp/rcc/>



●「希少がんホットライン」(希少がんの電話相談)

TEL : 03-3543-5601

2) 標準治療

「標準治療」とは、科学的根拠（エビデンス：実験や調査、臨床研究から導かれた裏付け）に基づき、効果があり、安全であることが検討された、現時点で「最も信頼できる優れた治療」です。主治医の先生は各々の病気の診療ガイドライン*に基づいて診療にあたっています。

一方、「先進医療」とは有効性、安全性を確かめる段階の新規の治療法です。未確立なものであり、言葉から画期的な治療といった印象がありますが、標準治療以上に効果があると認められたものではありません。それまでの標準治療より優れていることが証明されれば、その治療が新たな「標準治療」となります。先進医療は対象患者や実施できる医療機関が限定されています。

*診療ガイドラインとは

医療現場において適切な診断と治療を補助することを目的として、病気の診断・治療などの根拠や手順についての最新の情報を専門家の手でわかりやすくまとめた指針

●県内の標準治療を実施する専門医療機関

☑徳島県がん診療機関スピード検索（徳島がん対策センター）

<https://www.toku-gantaisaku.jp/search/>

☑がん種別専門診療医療機関・標準診療医療機関

（医療とくしま：徳島県）

<https://anshin.pref.tokushima.jp/med/docs/2020031700036/>



がんの主な治療法は、基本的に「手術療法」「薬物療法」「放射線療法」の3種類がありこれを三大治療と呼んでいます。様々な検査を行いながらその人にとってもっとも効果が期待できる治療方法を主治医は探っていきます。その方の年齢、身体状況、環境や希望などを考慮して総合的に判断し、治療方法が提案されます。場合によっては、2つ以上の治療を組み合わせる（集学的治療）こともあります。

① 手術療法

手術療法の目的は腫瘍や臓器の悪いところを取り除くことです。がん細胞は周囲の組織に広がったり（浸潤）、リンパ管や細かい血管に入ってリンパ節や他の臓器に広がったり（転移）することがあります。そのため、一般的にがんの手術療法ではがんができた臓器を大きめに切除します。また、臓器を切除したことによって正常な機能が失われてしまう場合には、臓器同士をつなぎ合わせるなどの機能を回復させるための手術療法（再建手術）を行うことがあります。

その他、がんの部位や進行度によっては、内視鏡治療、カテーテルを用いた血管内治療や焼灼術などが適用となります。



② 薬物療法

薬物療法はがんを治したり、あるいはがんの進行を抑えたり、症状をやわらげたりする治療です。

薬物療法には、「化学療法（抗がん剤治療）」「内分泌療法（ホルモン剤治療）」「分子標的療法」「免疫療法（免疫チェックポイント阻害薬）」などの種類があり、飲み薬と点滴・注射による方法があります。

患者さんの体調や仕事などのライフスタイルも考慮して、入院あるいは外来で治療を行っていきます。治療後は効果をみながら治療の継続や、その他の治療を検討したり、経過を観察したりします。



③ 放射線療法

放射線療法は人工的にある種の放射線を作り出し、それを患部にあてることにより、細胞のDNAに損傷を与え、がん細胞を消滅させたり、少なくさせる治療です。

放射線療法の目的は、がん細胞の根絶を目指すものと、骨転移などによる痛みなどの症状の緩和を目指すものがあります。

放射線療法では、体の外から放射線をあてる外部照射が一般的です。照射中（治療中）に痛みはありませんが、数分間は動かずにじっとしていることが必要です。ほかには、放射性物質を体内に挿入する方法や、飲み薬や注射で投与する内部照射があります。

放射線療法単独で行われることもあります。薬物療法や手術療法と併用されることもあります（集学的治療）。



3) がん症状・副作用に対する治療（支持療法）・ケア

がんに伴う症状、薬物療法や放射線療法などがん治療により起こる副作用や後遺症に対する、症状の軽減や予防を目指す治療を支持療法と言います。

例えば、薬物療法で副作用が強く出る場合は、量を調整したり、休止する場合がありますが、基本的に副作用を抑える治療を併用しながら治療が続けられます。

支持療法の例)

- ・抗がん剤による吐き気に対する制吐剤（吐き気止め）の投与
- ・抗がん剤による便秘に対する下剤の投与
- ・抗がん剤による白血球減少に対する抗菌剤やG—C S F製剤（白血球を増やす薬剤）の注射
- ・がんによる疼痛に対する、医療用麻薬などの鎮痛剤の投与（詳しくは20ページ）
- ・口内炎に対するステロイド軟膏やうがい薬、保湿
- ・リンパ浮腫に対する、リンパドレナージ・圧迫療法 など

日常生活に影響するがん症状・副作用があっても、**その多くは軽減するための対処が可能です**。中には、自覚しづらいものがあります、少しでも違和感や症状を感じたら、必ず主治医や看護師に相談しましょう。

就業している方でがん症状や副作用が仕事に影響する場合は、職場の上司・同僚等に相談しましょう。（詳しくは25ページ）



① リンパ浮腫

がん（乳がん、子宮がん、卵巣がん、前立腺がんなど）の治療として行うリンパ節の切除や、放射線療法、一部の薬物療法などによって、リンパ液の流れが悪くなり、溜まってむくんだ状態のことをリンパ浮腫といいます。

この症状は発症すると治りづらく、進行しやすいため、むくんだところが重くなる、関節が曲げづらくなるなど、生活にも影響することがあります。

リンパ浮腫は適切な治療を受けることで、進行をおさえたり、症状を改善することができます。**早く見つけて治療を受けることが大切です。**

手術療法でリンパ節を切除した腕や脚、放射線療法をした周りの部分がむくんでいる、だるい、重いと感じたときは、いつから、どこが、どんな様子かを伝えて、主治医に相談し、リンパ浮腫外来などを受診しましょう。

リンパ浮腫外来では、専門の医師やセラピストによるセルフケアの指導に加え、スキンケアや用手的リンパドレナージ（手で行う医療的なマッサージ）、弾性包帯や弾性着衣による圧迫療法、弾性着衣などで圧迫した状態での運動を組み合わせた治療を保険診療で受けることができます。

* リンパ浮腫に対する本人や周りの人ができる工夫

- ・リンパ浮腫を早く見つける
- ・適度に体を動かして、リンパ液の流れを促す
- ・保湿などのスキンケアを行い、感染を予防する
- ・肥満を予防する
- ・身体に負担をかけないようにする



② 口腔ケア

がん治療では、手術療法、薬物療法、放射線療法などの治療の過程で、お口（口腔）に合併症が生じます。

不衛生な口腔のまま手術療法を行なってしまうと、口腔の細菌が原因により肺炎が術後合併することがあります。放射線療法や薬物療法では、口内炎（口腔粘膜炎）、唾液の分泌が障害されることによる口腔乾燥、味覚異常、顎骨感染など様々な口腔トラブルが起こり、痛みなどの不快症状を引き起こすとともに、口から食事をとりづらい状況も起こりえます。特に口内炎は薬物療法を行なっている患者さんの40%以上におこると言われています。

がん治療が始まる前に、歯科治療や口腔ケアといったお口の健康管理を行うことでこれら合併症のリスクを減らすことができます。

がん治療することが決まったら、主治医に口腔内の状態について相談し、がん治療と連携して歯科診療をしてくれる歯科医院を受診しましょう。がん治療中、治療終了後も同様に、気になる口腔内の症状があれば、速やかに主治医、歯科医師に相談し、適切な治療を受けることが大切です。



● 「徳島県がん診療連携登録歯科医名簿」（国立がん研究センターがん情報サービス）

がん診療連携登録歯科医とは、日本歯科医師会主催の講習会を修了した、がん患者さんへのお口のケアや歯科治療についての知識を習得した歯科医師です。



③ アピアランスケア

外見（アピアランス）の変化への苦痛を軽減するケアのことを指します。人によって、がん治療に伴って外見に変化が起こりうることがあります。代表的なものとして抗がん剤の副作用による髪の毛や眉毛、まつ毛の脱毛が挙げられます。その他にも手術療法の傷あと、爪の変形、皮膚の変色があります。

外見の変化により、周囲の目を気にして外部との関わりを避けたり、外出をしなくなったりと、今まで通りの生活を送りにくくなる方もいます。がん相談支援センターでは患者さんの見た目の変化から生じるつらさや苦痛をできるだけ軽減できるよう、一緒に解決の糸口を探したり、情報を提供していますのでご利用ください。



4) がんゲノム医療

がんゲノム医療とは、**がんの組織を用いて、一度に多数の遺伝子検査（がん遺伝子パネル検査）**を行い、がんの原因となった遺伝子変異を解析しがんの性質を明らかにすることで、患者さん一人ひとりに合わせたふさわしい治療を行う医療です。



●がん遺伝子パネル検査の対象・留意点

一般的には、①標準治療がない固形がん、②局所進行もしくは転移があり、標準治療が終了した（終了見込みを含む）固形がんの人で、次の新たな薬物療法を希望する場合に検討します。また、全身状態などの条件もあり、結果が出るまでに1～2カ月要します。

検査を受けても、遺伝子変異が特定できない場合や、遺伝子変異があっても使用できる薬剤がない場合もあります。

本検査で遺伝子変異に基づいた治療につながる割合は約10%といわれています。

●がんゲノム医療はどこで受けられる？

がんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療拠点病院及びこれらと連携するがんゲノム医療連携病院でがんゲノム医療を受けることができます。

徳島県では、徳島大学病院が「がんゲノム医療連携病院」としてがん遺伝子診断外来を行っています。

まず、ご自身が対象となるか、主治医と相談しましょう。一般的ながん遺伝子パネル検査については、がん相談支援センターでも相談することができます。

☑関連情報サイト

がんゲノム医療（国立がん研究センター がん情報サービス）



https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/genomic_medicine/genmed01.html

5) 緩和ケア

① 緩和ケアとは

がんに伴う痛みなどの身体的苦痛、不安や葛藤などの精神的な苦痛、不快な症状を和らげ、自分らしい生活を送ることができるように支えるケアを緩和ケアと言います。緩和ケアは、必要に応じてがん治療の初期から受けることがすすめられており、決して、がんが進行したり、がん治療ができなくなった時点に限定して行われるものではありません。

身体の苦痛のみでなく、心のつらさなどの心理的なこと、仕事やお金などの社会的なこと、生きる意味や価値観の変化などスピリチュアルな悩みなど、複雑なあらゆる苦痛(全人的苦痛)に対するケアを指します。

緩和ケアとがん治療のチャート

がんの治療に伴う苦痛(吐き気、食欲低下、痛みなど)の状況に応じて、緩和ケアはがん治療とあわせて行われます。



診断時 日本緩和医療学会 緩和ケア.net より抜粋

② 緩和ケアを受けるには

緩和ケアは入院、外来、在宅療養など場所を問わず、どこでも受けることができます。例えば、あなたが身体や心に痛みやつらさを少しでも感じた時、我慢せずに、主治医や看護師といった身近な医療者に伝えてみましょう。それが緩和ケアのスタートです。できるだけ具体的に伝えましょう。

緩和ケアチームによる専門的なケアや、緩和ケア病棟、在宅での緩和ケアの選択肢があります。

近年では、診断時より、医療者が積極的に痛みやつらさの有無やその程度を患者さんから聞き取って対応してくれています。

【緩和ケアチーム】

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフ、公認心理師、がん専門相談員など多職種で構成された*、がん等による辛い症状を軽減し、少しでも楽にするための専門チームです。

緩和ケアチームをもつ医療機関

徳島大学病院	徳島市民病院	徳島県立中央病院
徳島赤十字病院	徳島県立三好病院	阿南医療センター
吉野川医療センター	徳島県立海部病院	

*緩和ケアチームのメンバー構成や人数は、病院の規模や方針により異なります。

【緩和ケア病棟】

がん患者さんの身体と心の苦痛緩和のための治療とケアを行う病棟です。医療費は健康保険が適用されます。在宅緩和ケアを受けている患者さんの家族の肉体的・精神的疲労を軽減することを目的とした短期(レスパイト)入院*など、多様な目的で利用できます。*レスパイト入院は徳島県では近藤内科病院のみ実施。

緩和ケア病棟をもつ医療機関

名称	所在地
近藤内科病院	徳島市西新浜町1丁目6番25号
徳島市民病院	徳島市北常三島町2丁目34番地
徳島県立三好病院	三好市池田町シマ815-2
阿南医療センター	阿南市宝田町川原6番地1

新型コロナウイルス感染状況等により病棟編成で閉鎖されることもあります。

✓在宅で緩和ケアを提供している医療機関

徳島がん対策センター 徳島県がん診療医療機関検索
在宅緩和ケア

https://www.toku-gantaisaku.jp/search/result.html?cancer_type=care&find_type=



③ がん疼痛緩和と医療用麻薬

がんの痛みに対する治療として医療用麻薬を使用することがあります。しかし、日本では、医療用麻薬に対して、「依存性がある」「最後の手段である」という誤ったイメージを持たれている方も少なからずいます。

治療のために医師から処方された医療用麻薬を使うときには、**依存や中毒は起こりませんし、寿命が縮まることもありません。**むしろ最近の研究では、痛みをとることによって、生存期間が延長し、生活の質が向上することなども報告されています。痛みを我慢せず、安心して治療を受けましょう。



6) 民間療法のがんに対する効果は証明されていない

民間療法といわれるものにはたくさんの種類があり、定義も明確ではありませんが、医師以外の人、または自分自身の判断で行う、病状の改善や健康増進を目的とした行為があてはまります。

がんの治療法を選択するときや治療を受けているときに、手術療法や薬物療法、放射線療法といった標準治療のほかに、健康食品やサプリメントといった民間療法に関心を持つ人は少なくありません。

しかし、現時点で、民間療法は、がんそのものへの効果は証明されていません。つまり、民間療法が、がんに効く（がんが消えたり、がんが小さくなる）かどうかは、分かりません。標準治療のかわりに、民間療法のみを受けることは、危険です。

民間療法によって、現在行っている標準治療の効果が弱くなることや、予期せぬ副作用が出ることもあります。民間療法ははじめようと思ったときや、はじめた後でもいいので、がんの治療の担当医や医療者に必ず相談しましょう。

以下のサイトでは民間療法について、科学的根拠（エビデンス）に基づいた信頼できる情報が紹介されています。



●がんの補完代替医療ガイドブック

(厚生労働省『「統合医療」に係る情報発信等推進事業』eJIM)

https://www.ejim.ncgg.go.jp/public/doc/pdf/cam_guide_3rd_20120220_forWeb.pdf

